

秋大豆新品種「アキセンゴク」について

工藤洋男・池田 稔・下津盛昌

(熊本県農業試験場阿蘇分場)

秋大豆の蔓化徒長は着莖を減じ、減収の一因となるので、中間型大豆「赤莖」の形質を秋大豆極晩生種に導入する事によつてこれの解決を得ようと試み、その結果短莖蔓化難で密莖の「アキセンゴク」の育成をみるに至つた。本品種の育成に直接従事した職員は管益次郎、小島敏夫、丸山恵三、柏原正雄及び筆者等である。

来歴ならびに育成経過

アキセンゴクは昭和24年に熊本県農業試験場阿蘇分場において伊予を母に、赤莖を父として人工交配を行い、以後系統育種法により育成したものである。昭和30年より生産力検定試験を開始し、31年に系統番号、翌32年から九州11号の系統名を付けて地方的適否を確かめて来た結果、その成績良好であつたので、昭和37年(F13)に大豆農林30号に登録、「アキセンゴク」と命名され、福岡県及び鹿児島県において奨励品種に採用された。

特性概要

1. 形態的特性 草状はハウギョクを少々矮小にした有限型で、分枝数は少々少いが莖太く草勢は旺盛である。短莖で蔓化徒長し難く、着莖は密である。子実

粒は蛋白質含有量が極めて高く夏大豆に匹敵する。中粒種で臍色は褐色であり、褐斑粒も殆んど発生しないので外観上の品質も申し分ない。

2. 生態的特性 アソムスメより数日晩熟、アソマサリより数日早熟で、Vc 晩に属する極晩生種である。燐酸欠乏土壌適応性はアソムスメ、アソマサリに比較して、より大であるが、黒腐病抵抗性は中程度で少々弱く、葉焼け抵抗性は少々強で変らない。銹病抵抗性はアソムスメと同じ中程度でアソマサリより若干劣る。

適地

生産性は中国、四国及び九州の各中山間及び平地地帯の広範囲に亘つて高く、瘠地適応性もかなり認められるが、晩熟、短莖及び倒伏難の特性からみてむしろ四国及び九州の各平地肥沃地向と考えられる。殊に鹿児島県において過去3カ年間の試験の結果良好な成績を収めたので、九州、四国の各南部平地地帯の早期水陸稲跡作用品種として好適するものと推察される。畦畔大豆には四国、九州各平地地帯向として推奨される。

第1表 特性概要一覽

県名	品種名	開花期 月日	成熟期 月日	生育 日数	莖長 cm	主節 莖数	分枝数	百粒 重gr	粒 重gr	褐斑	品質				
鹿児島 福岡	アキセンゴク	9.16	11.19	98	40	11.3	3.4	22	無	上下					
	アソムスメ	9.14	11.14	93	47	10.7	4.5	28	無	中上					
	アソマサリ	9.2	11.10	123	49	15.7	4.1	19	無	上下					
	アキセンゴク	9.5	11.15	128	54	15.8	5.4	18	無	中上					
品種名	花色	莖色	毛茸 の色	毛茸 の多 少	粒形	粒色	粒の 光沢	臍色	燐欠 適応 性	銹病 抵抗 性	葉焼け 抵抗 性	黒腐 病 抵抗 性	粗蛋白 %	粗脂肪 %	備考
アキセンゴク	白紫	淡褐	淡褐	多	楕円	黄白	無	褐	大	並	強	強	45.57	15.94	新品種
アソムスメ	淡紫	淡褐	淡褐	多	楕円	黄白	無	黒	並	並	強	強			鹿児島県対照品種
アソマサリ	淡紫	淡褐	淡褐	多	扁楕円	黄白	無	暗褐	並	強	強	強			福岡県対照品種

第2表 配布先における試作成績

試験地名	福岡	鹿児島	鹿屋	熊毛	熊本阿蘇	天草	大分	久住	佐賀	長崎	徳島	愛媛	高知	香川	山口	広島	岡山	兵庫	島根	鳥取	三重	奈良	愛知
収量対標準比率%	103	112	115	97	112	80	130	101	93	83	120	119	91	116	131	106	103	106	129	117	99	94	105
供試年数	5	3	2	1	7	4	5	6	2	2	3	5	5	6	2	2	2	2	4	4	2	2	3